

生育ステージに合わせた適期防除を実施しましょう!!

※不明の点がありましたら、各地区指導員にお問い合わせください。

【発育状況】 [3/23 現在 果樹研究所]


開花予測	発芽日			今後の気温経過と開花予測日			参考:開花始	
	本年	平年	昨年	平年並	2℃高い	2℃低い	昨年	平年
あかつき	3/21	3/23	3/24	4/12	4/7	4/17	4/9	4/12
幸水	3/31(見込)	3/31	3/28	4/20	4/16	4/25	4/17	4/19
ふじ	3/25(見込)	3/26	3/26	4/27	4/21	5/3	4/20	4/24

今回の防除情報については下記の内容にてお知らせさせていただきます。なお、防除内容の確認を行い作成しておりますが、皆様におかれましても防除の際には、防除層を参照するとともに使用農薬に記載されている希釈倍数等の内容を必ず確認してください。

★下記表中の散布日はおおよその目安です。生育進捗・害虫の発生状況をよく観察し、適期防除に努めてください。


注意事項：展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍又はラビデン3S 10,000倍を使用する。(水100ℓ当り10cc)

【もも】(防除暦 24頁参照) 【注意:春型枝病斑は見つけ次第せん除する!】


散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当たり)	SS散布量
2	開花直前 【4/5頃】 	せん孔細菌病	1. ICボルドー412 30倍 (3,300g) または 1. 展着剤 2. クプロシールド 1,000倍 (100cc) 1. ムッシュボルドーDF500倍(200g)または4-12式ボルドー液を開花前までに使用してもよい。(どちらも展着剤を加用する)但し、あぶらな科野菜、インゲン、レタスには薬害が生じる恐れがあるので隣接園には注意する。 4-12式ボルドー液 ①生石灰(1,200g)②硫酸銅(400g)	300ℓ
特別散布	開花初期	灰星病(花腐れ)	1. 展着剤 2. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc) 1. 前年、花腐れの発生が多い園や、降雨、曇天が続くような場合は散布する。	300ℓ
3	落花直後 【4/15頃】 花びら2~3枚散り始め	せん孔細菌病 黒星病・灰星病 モモハモグリガ シンクイムシ類	1. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 2. アグレプト水和剤 1,000倍 (100g) 3. デミリン水和剤 2,000倍 (50g) 1. アグレプト水和剤の使用時期は、収穫前日数60日なので6月に収穫する品種には使用しない。 2. ミツバチ設置期間中なのでデミリン水和剤以外の殺虫剤は絶対に使用しないこと。 3. 合ピレ剤規制地域ではデミリン水和剤は使用しない。 4. モモハモグリガの重要防除時期(4/16頃)なので、遅れないように散布する。	300ℓ

※各樹種、写真のステージを確認して散布して下さい。


【りんご】(防除暦 49~50頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当たり)	SS散布量
2	開花直前 【4/20頃】 ※生育ステージに合わせて散布 	黒星病・黒点病 赤星病・うどんこ病 褐斑病・すす点病 すす斑病・炭そ病 斑点落葉病・輪紋病 モニリア病 ハマキムシ類 シャクトリムシ類 ケムシ類 アブラムシ類	合ピレ剤使用可能地域 1. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 2. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc) 3. ウララDF 4,000倍 (25g) 4. バイオマックスDF 3,000倍 (33g) 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 2. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50cc) 3. ウララDF 4,000倍 (25g) 1. 高温時(25℃以上)のときは薬害のおそれがあるため散布しない。	250ℓ

【なし】 幸水・豊水・あきづき・秀玉・新高・王秋・二十世紀・南水 (防除暦77~78頁参照) 【注意:芽基部病斑は見つけ次第除去する!】

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当たり)	SS散布量
1	発芽1週間後 【4/3頃】 	黒星病・黒斑病 ハマキムシ類	1. 展着剤 2. デランフロアブル 1,000倍 (100cc) 3. バイオマックスDF 3,000倍 (33g)	250ℓ

今回以降、黒星病の重要防除時期に入るので散布間隔を10日以上あけないよう注意する。また、開花期前後は、散布量10a当り300ℓを下回らないよう厳守すること。

2	開花直前(風船状態) 【4/13頃】 	黒星病・黒斑病 赤星病 (アブラムシ類) この回を、極端に早くならないよう	1. 展着剤 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g) 3. アンビルフロアブル 1,000倍 (100cc) 1. ミツバチ・マメコバチの導入前に散布する。 2. アブラムシ類の発生が多い場合は、ウララDF 4,000倍(25g)も使用する。 3. 今回以降、低温による生育の遅れで次回との散布間隔が10日以上あきそうな場合は、チオノックフロアブル500倍(200cc)を散布する。	300ℓ
3	落花直後 【4/23頃】	黒星病・黒斑病 赤星病	1. 展着剤 2. スコア顆粒水和剤 4,000倍 (25g) 3. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)	300ℓ

【ぶどう】(防除暦 115～116頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当たり)	SS散布量
2	発芽前 【4月中旬】	晩腐病 黒とう病・つる割病	1. 展着剤 2. デランフロアブル 200倍 (500cc)	200ℓ
		1. 晩腐病防除強化を図るため散布量を厳守する。 2. 園周辺のイタドリ、ヨモギ等は丁寧に除去する。(コウモリガ対策)		
特別散布	展葉 (2～3枚頃)	黒とう病・晩腐病 褐斑病・灰色かび病 べと病・枝膨病	1. 展着剤 2. オーソサイド水和剤 800倍 (125g)	200ℓ
		1. 前年、黒とう病の発生が多かった園では必ず散布する。		

【おうとう】(防除暦 135～136頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当たり)	SS散布量
特別散布	蕾が分かれた頃 【4/10～15日頃】	ハマキムシ類	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. ロムダンフロアブル 3,000倍 (33cc)	300ℓ
2	開花直前 (風船状態) 【開花1日前】	灰星病 幼果菌核病 せん孔病	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. トップジンM水和剤 3. オーソサイド水和剤 1,500倍 (65g) 800倍 (125g)	350ℓ
		1. 灰星病の重要防除時期なので、遅れないように散布する。		
3	満開3日後	灰星病 炭そ病・幼果菌核病 (ハマキムシ類)	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. サンリット水和剤 3. オーソサイド水和剤 2,000倍 (50g) 800倍 (125g)	400ℓ
		1. ハマキムシ類の発生が見られる場合は、バイオマックスDF3,000倍(33g)も使用する。 2. ミツバチ設置期間中なのでバイオマックスDF以外の殺虫剤は絶対に使用しないこと。		
特別散布	落花後	灰星病	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. ロブラール水和剤 1,500倍 (65g)	400ℓ
		1. 例年、花腐れの発生が多い園や、雨天が続く場合は散布する。		

【すもも】(防除暦 159頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当たり)	SS散布量
特別散布	落花後 【4月上旬】	ハマキムシ類	1. 展着剤 2. バイオマックスDF 3,000倍 (33g)	250ℓ
		1. ハマキムシ類の発生が見られる場合は使用する。 2. ミツバチ設置期間中なのでバイオマックスDF以外の殺虫剤は絶対に使用しないこと。 3. 合ピレ剤使用規制地域ではバイオマックスDFは使用しないこと。		

【ネクタリン】(防除暦 179～180頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当たり)	SS散布量
2	開花直前 【4/5頃】	せん孔細菌病	1. ICボルドー412 30倍 (3,300g)	300ℓ
		※ムッシュボルドーDF500倍(200g)を展葉前までに使用してもよい。		
特別散布	開花初期	灰星病 (花腐れ)	1. 展着剤 2. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc)	300ℓ
		1. 前年、花腐れの発生が多い園や、降雨、曇天が続くような場合は散布する。		
3	落花直後 【4/15頃】	せん孔細菌病 黒星病 モモハモグリガ・ハマキムシ類	1. チオノックフロアブル 2. マイコシールド 3. サムコルフロアブル10 500倍 (200cc) 2,000倍 (50g) 5,000倍 (20cc)	300ℓ
		1. ミツバチ設置期間中なのでサムコルフロアブル10以外の殺虫剤は絶対に使用しないこと。		

【うめ】(防除暦 170頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当たり)	SS散布量
2	【4月上旬】	黒星病 アブラムシ類	1. 展着剤 2. コロナフロアブル 3. ダイアジノン水和剤 400倍 (250cc) 1,000倍 (100g)	350ℓ

★農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に混在している園地では十分注意して散布をお願い致します。